

2018年1月17日

各 位

大阪中小企業投資育成株式会社
代表取締役社長 齋藤 浩
(大阪市北区中之島3-3-23)

投資先企業景況アンケート結果の発表

下記の通り、当社投資先企業に対して景況アンケートを実施いたしました。

結果については次頁以下をご覧ください。

調 査 時 点 : 2017年12月中旬

調査対象先 : 当社投資先企業966社

回 答 数 : 596社

回 収 率 : 61.7%

◇本発表に関するお問い合わせ先

事業支援部

福山 裕人

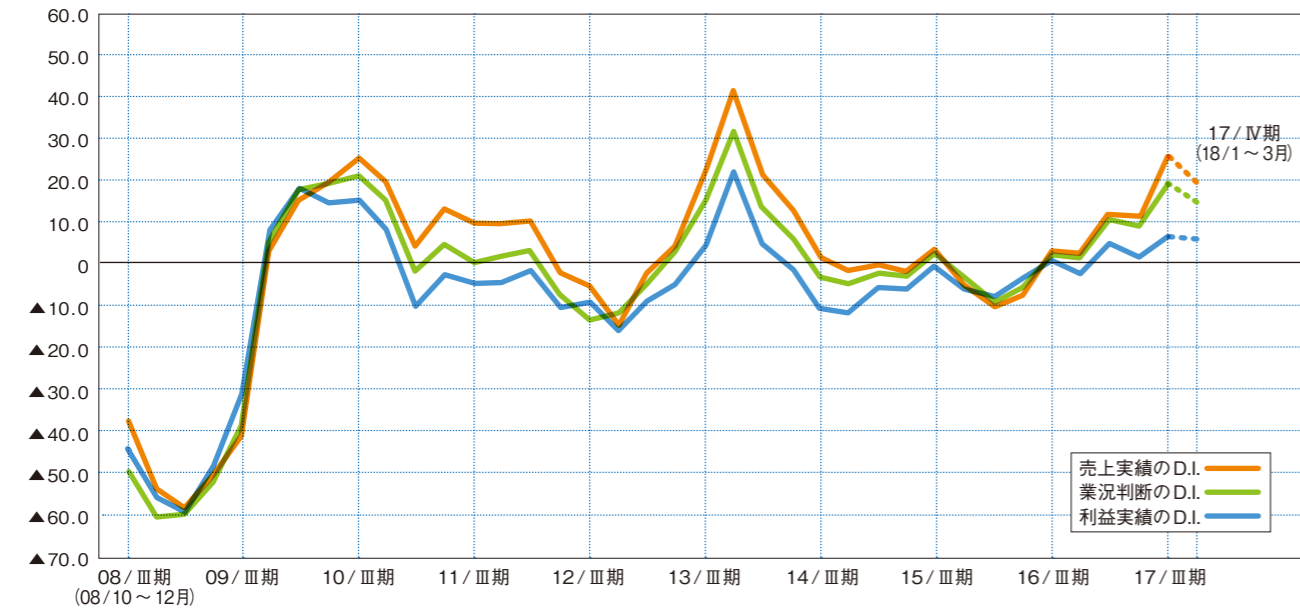
電 話 : 06-6459-1700

メー ル : pr@sbic-wj.co.jp

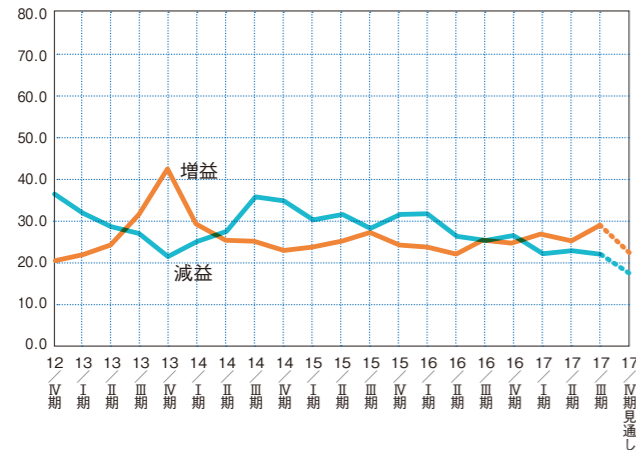
改善幅大きく好況感広がるも、先行きを警戒

投資先企業の2017年第3四半期の景況アンケートによると、2017年10～12月期は売上実績、業況判断の各D.I.は5期連続のプラスとなり、利益実績のD.I.も3期連続のプラスを継続した。いずれも改善幅大きく、好況感の拡がりをうかがわせる結果となったが、先行きへの警戒が強まりつつある。

売上及び利益実績・業況判断のD.I. (前年同期比) の推移



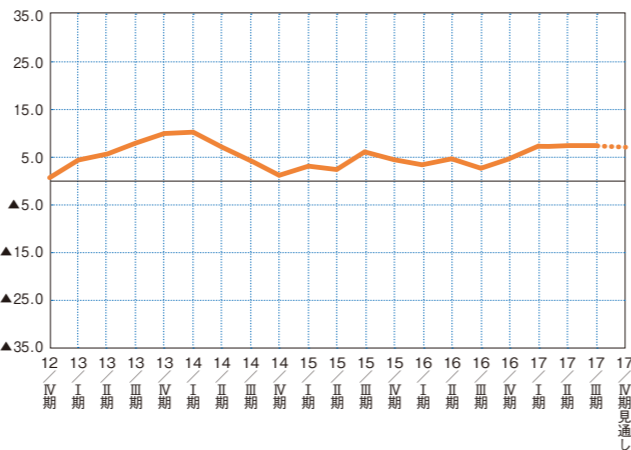
利益実績の増減益割合 (前年同期比) の推移



- ① 2017年10～12月期の売上実績D.I. (増収企業割合-減収企業割合)は前四半期の10.9から26.4へ、利益実績D.I. (増益企業割合-減益企業割合)は1.6から6.9へ、業況判断実績D.I. (好転企業割合-悪化企業割合)は9.2から19.8となった。売上実績・利益実績・業況判断実績はいずれもプラスで、特に売上実績・業況判断実績は10ポイント以上の改善となった。
- ② 利益実績D.I.を業種別推移表で見ると、2017年10～12月期ではマイナスを示しているのは3業種で、繊維についてはマイナスの状態が長く続いている。食料品も4期連続のマイナスとなった。前四半期からプラスに転じたのは、建設、サービス他の2業種で、建設は6期ぶりのプラスとなった。
- ③ 2018年1～3月の見通しD.I.は、2017年7月～9月期の売上実績D.I.26.4から見通しD.I.19.8へ、利益実績D.I.は6.9から見通し5.6へ、業況判断D.I.は19.8から見通し14.8へといずれも、悪化しないは、ほぼ横這いを見込んでおり、好況感を維持しながらも先行きへの警戒が強まりつつある。

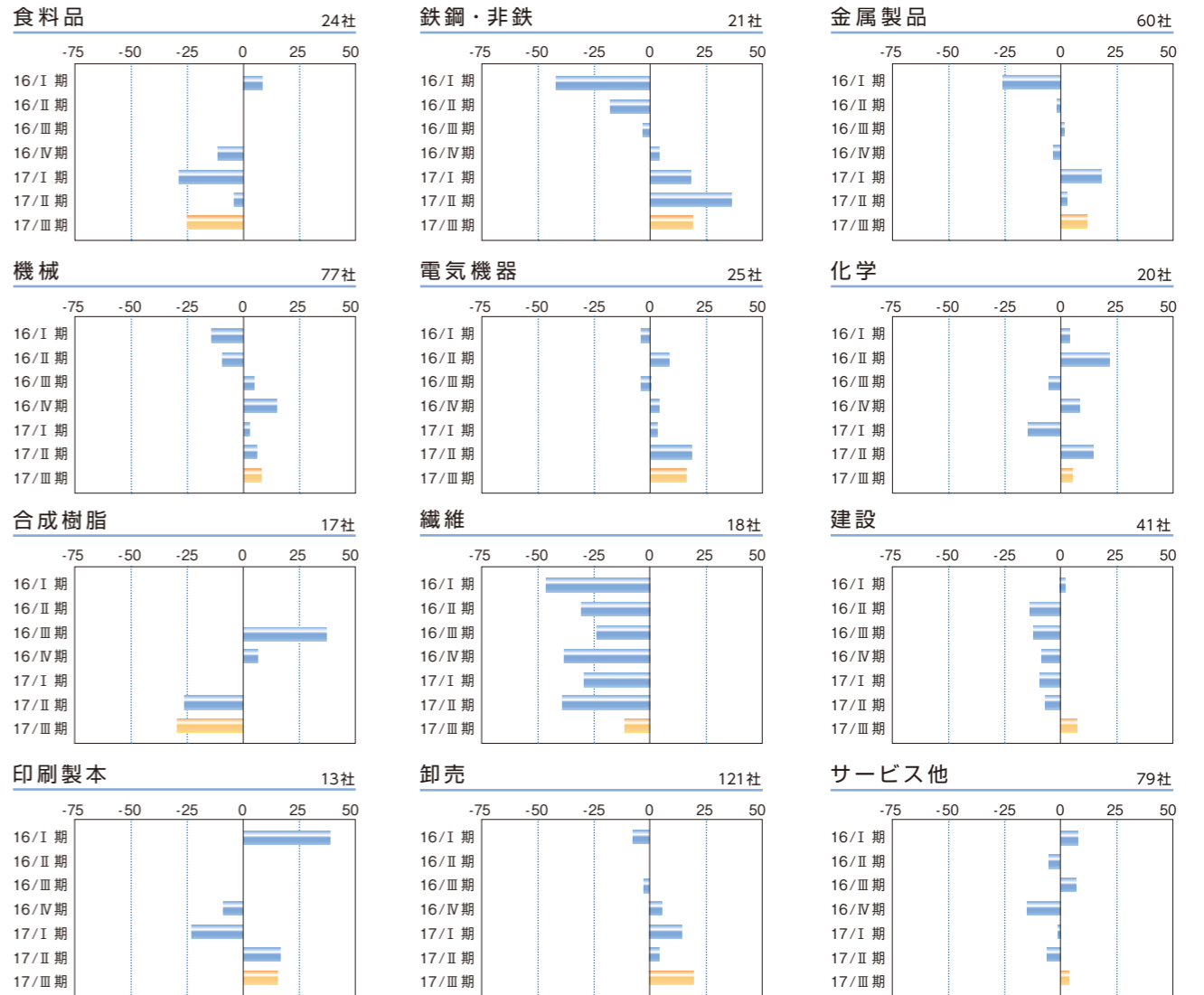
利益実績の増減割合で見ると、増益を見通す企業が6.5ポイン

資金繰り実績のD.I. (前年同期比) の推移



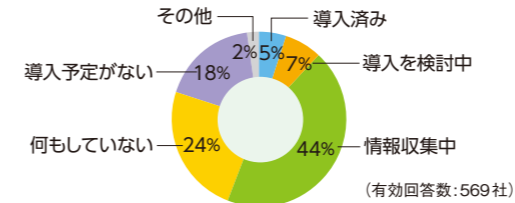
ト減少し、減益を見通す企業も5.1ポイント減少しており、業況判断には慎重姿勢が続いている。
 なお、12月発表の日銀短観では世界的な景況拡大や円安などの恩恵を受け、大企業の製造業は、業況判断指数が5四半期連続で改善、11年ぶりの高水準となった。非製造業を含む全産業ベースでも26年ぶりの高水準だった。企業業績は改善が続いており、日本経済新聞によると2017年4月～9月の純利益が前年同期より増えた企業数が上場企業の7割にのぼっている。景況感の改善は中小企業でも顕著で、業況判断も約26年ぶりの高水準となった。ただ、先行きについては、引き続き慎重な姿勢を崩していない。朝鮮半島情勢や外需について不安定感が拭えないまま、人手不足の深刻さがいっそう増している。政府は春闘で経済界に3%の賃上げを求め、賃上げした企業には法人税を優遇するなどの税制改正を行う方針だ。今後はこうした人手不足などによる人件費の上昇や資源価格上昇による原料高を、企業が販売価格に転嫁できるかどうかを注視していく必要がある。

主要業種別利益実績のD.I. (前年同期比) の推移

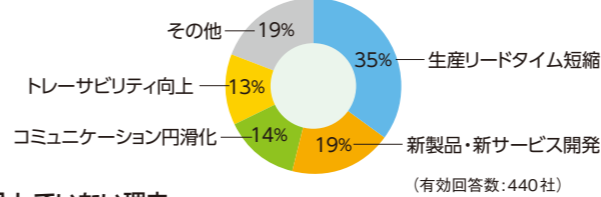


IoTへの取り組みについてのアンケート結果

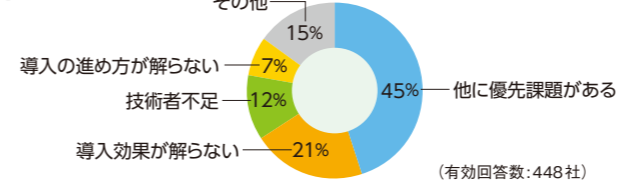
●IoTへの取り組みについて



●導入に期待する効果



●導入していない理由



多くの中小企業では、人手不足等を背景に現場力の向上が課題となっています。こうした中、IoTやロボット技術を活用した「スマートものづくり」を通じて、人手不足の解消や生産性の向上を目指す取り組みが始まっています。一方で、関心はあるが、活用方法が解らないといった声も少なくありません。そこで、今回は第四次産業革命の一角を担うと注目されているIoTへの取り組みについてアンケートを行いました。

IoTへの取り組みについては、「導入済み」5%、「導入を検討中」7%、「情報収集中」44%、「何もしていない」24%、「導入予定がない」18%、「その他」2%となっており、実際に導入している企業は少数で、大半の企業が情報収集までの段階にあります。

導入に期待する効果については、「生産リードタイム短縮」35%、「新製品・新サービス開発」19%、「コミュニケーション円滑化」14%、「トレーサビリティ向上」13%、「その他」19%となりました。IoTへの期待は生産面だけにとどまらず、広い範囲に及んでいます。

一方、導入していない理由については、「他に優先課題がある」45%、「導入効果が解らない」21%、「技術者不足」12%、「導入の進め方が解らない」7%、「その他」15%となっています。IoTについては、期待感はあるものの、他に優先すべき課題もあり、導入には至っておらず、情報収集を進めているところというのが現時点での平均像になるでしょうか。ご協力ありがとうございました。